

## IAUD Newsletter vol.6 第3号 (2013年5月上旬号) 目次

1. 移動空間PJ「モビリティ環境に関するセッション」参加報告・・・ 1
2. 第3回定例セミナー 余暇のUDPJ企画CM字幕勉強会開催・・・ 7
3. IAUDアワード2013締切迫る・・・ 7
4. スペインUD通信・・・ 8

### UD視点の意識の広がりを実感

特集：移動空間PJ日本・デンマーク共同

「モビリティ環境に関するセッション」参加報告



デンマーク人学生と日本人参加者による全体ディスカッション

日本とデンマークのアクセシビリティを比較して、今後のあるべきモビリティ環境について考える「モビリティ・フューチャーセッション with Denmark」が3月16日(土)、二子玉川ライズ・オフィス内「カタリストBA」(東京・世田谷区)で開催され、デンマークからの学生や一般参加者など約70名が参加しました。

このセッションにはIAUDからも、移動空間プロジェクトのメンバーら12人が参加し、更なるUD視点の広がりを得ました。

今号のNewsletterは、同プロジェクトの森 幹太氏に当日の様子を報告していただきます。

## 未来のモビリティ環境について共に考える

「モビリティ・フューチャーセッション with Denmark」は、「福祉先進国」「ノーマライゼーション」「世界一幸せの国」など、今の日本にとって魅力的な形容詞で伝えられるデンマークと、公共交通のアクセシビリティや移動機器などこれからのモビリティ環境について比較し、共に考える対話型セッションです。

健全者と障害者が共に学ぶデンマークの寄宿制学校「エグモント・ホイスコーレン」の学生たち約 30 人の来日に合わせ、IAUD 賛助会員で株式会社グラディエ代表の磯村 歩氏が主催のもと、開催されました。

セッションはまず、デンマーク人学生と共に二子玉川周辺を散策して、外国人が日本のアクセシビリティをどう感じるかを観察し、さらに日本人がデンマークのアクセシビリティをどう感じたのかを滞在経験のある磯村氏が報告。最後に、これらを踏まえた参加者全体によるディスカッションが行われました。

**進行：**株式会社グラディエ代表 磯村歩氏

**通訳：**エグモント・ホイスコーレン教員 片岡豊氏、Kornum りえこ氏

**運営スタッフ：**エグモントネットワーク

**主催：**株式会社グラディエ、エグモントネットワーク

**協力：**エグモント・ホイスコーレン

※朝日新聞に掲載された「エグモント・ホイスコーレン」記事は[こちら](#)をご覧ください。



進行役の磯村氏



オリエンテーション風景

## デンマーク人学生との散策による気づき

まず、エグモント・ホイスコーレンの学生約 30 名（車イスユーザー含む）と日本人参加者を混合した 5 つのグループに分け、「二子玉川ライズ・ショッピングセンター」「二子玉川ライズ・ドッグウッドプラザ」を散策しました。そして、デンマーク人が日本の公共エリアのどこに戸惑うか、また日本のアクセシビリティをどう感じるのかを、同行の日本人が観察しました。

※当初は、一駅だけ電車に乗って公共交通のあり方を調査するプログラムも組み込まれていましたが、諸事情により中止となりました。



A



B

- A. ショッピングエリアは広々としていて、アクセシビリティは良い。  
 B. 施設自体が新しいこともあり、エレベーターや階段、トイレなど細部に課題はあったものの、大きな問題はない印象。



C



D



E

- C. エレベーターは広くて、車イス使用の人も数人乗れる。  
 D. 車イス使用の方へ配慮された高さの案内表示板。  
 E. エレベーターやトイレなど、外国語表記が少ないという意見が多数。



F



G

- F. 飲食店などの看板の表示位置は高いという意見多数。  
 G. 日本人はエレベータについて、障害を持たない人が沢山利用している印象。障害を持つ人が利用しにくい。



H



飲食店フロア調査風景

H. 日本の店舗は、通路は広いが店内が狭く、電動車イスでは入りにくい。入り口に段差があることも多い。

## デンマーク滞在経験者による報告

次に、日本人がデンマークのアクセシビリティをどう感じたのか、さらにどこに戸惑いどこに感心したのかを、デンマークに滞在経験のある磯村氏より報告がありました。

## UD に対する意識の違いが浮き彫りに

最後に、これまでのプログラムを踏まえての全体ディスカッションが行われ、デンマーク学生と日本人参加者の混合グループ別に、調査の気づきを発表しました。

以下にグループディスカッションでの意見、及び日本・デンマーク双方の質問回答を抜粋します。

- ・ 公共施設は、日本の方が身体障害のアクセシビリティは良いと感じた。
- ・ 住居は、デンマークの方が身体障害のアクセシビリティは良いと感じた。
- ・ デンマークはアクセシビリティに配慮されたスロープ式のエスカレーターもある。
- ・ 日本のトイレは、自動洗浄のボタンラベルが日本語のみ。多目的トイレの便器横にある小さな手洗い台を小便器と間違えそうになった。
- ・ デンマークの電車は、電動スクーターや自転車をそのまま持ち運べる車両が常時運用されている。車両では自転車、歩行補助者、車イス、乳母車など様々なモビリティが見られる。
- ・ デンマークの点字ブロックは、景観を優先した色彩や曲面の建築外溝に合わせてカーブを描いたものなど様々なデザインがあるが、昔は日本と同じようなデザインだった。現在はロケーション別に特徴を持たせたデザインも見受けられるようになった。
- ・ 障害者を支えることについては、デンマークは社会の責任が重い。日本は家族の責任が重い。
- ・ デンマークでは、自治体に必要だと認定されれば、障害者が必要とする補助器具の費用は全額負担してくれる。
- ・ デンマークのパーソナルアシスタント制度は、障害者自身が介助者の雇い主となり、雇う費用は国が負担してくれる。障害者は介助者の就業管理も行う。
- ・ デンマークでは、家族が同居していてもパーソナルアシスタント制度など、国からの

補助を受けられる。

- ・デンマークには日本のような障害者手帳の認定制度が無い。障害という区別や定義はせず、残存能力と当事者の希望（ニーズ）によって保障の内容を決めていく。
- ・デンマークには電車の障害者割引券があるが、その認定は国ではなく障害者団体が行う。
- ・デンマークの重度の障害児は、一般の幼稚園に通うための支援を受けられる。
- ・デンマークの障害者は、社会的活動をしている条件を満たせば、リフト付き自動車とその運転手が与えられる。
- ・デンマークのタクシー会社には、リフト付き車両を配備することが義務付けられている。（但し、稼働している全てのタクシーにリフトが整備されているわけではなく、猶予措置など一定範囲の柔軟な運用がされていると考えられる）



ディスカッション内容をグループ別に発表



発表に聞き入る参加者たち

## 健常者と障害者が協力して共に生きるデンマーク

今回参加して一番感じたことは、「障害」と「自立」に対する日本とデンマークの考え方の違いです。

デンマークでは、「障害」を個性と捉え、障害者と向き合う気持ちは、日本ではおそらく大多数であろう“介護をしてあげる、してもらおう”という一方向的な考え方ではなく、あくまで“相互”なのです。お互いに助ける、助けられるという共通意識の元、健常者と障害者が自然な営みの中で、“協力して共に生きる”という感覚です。

さらに、「自立」に関しては、18歳を超えると、健常者・障害者にかかわらず、自立をすることが当たり前というデンマークの社会意識。支援する社会制度が日本より充実していることが大きな要因であることはもちろんですが、そこには真に個人を尊重する意識の違いが大きなベースとなっているようです。

また、磯村氏によると、デンマークと日本の障害者施設や乗り物（電動車イスなど）を比較すると、日本のものは“施し”や“同情心”が使用者に伝わってしまうものが多いように感じるといいます。健常者と障害者が同じ空間をシェアする“楽しみ”といった考え方を共存する施設や乗り物が増えてくれば、おのずと移動空間のUDも一段高いレベルへ移行するのではないのでしょうか。



セッション参加者との記念撮影

## より俯瞰的な UD 視点が必要

そしてもう一つ感じたことは、今回でしかできなかった日本・デンマーク共同での実地調査とディスカッションについてです。

受け身ではなく、能動的にやってみる調査では、文献やネットでは得られない“気づき”、まさに UD に対する意識の違いをエグモント・ホイスコーレンの学生たちと直に接することで、“肌で感じた”貴重なセッションでした。

私たち IAUD からの参加者一同は、今回の共同セッションと磯村氏の報告の両方から、より俯瞰的な UD 視点への意識チェンジの必要性を痛感いたしました。

このような貴重な機会を作ってくださった磯村氏、エグモントネットワークの方々、そしてエグモント・ホイスコーレンの学生の皆様に感謝申し上げます。

## 具体的な提言に向けた活動へ

情報の継ぎ目の無い移動空間の実現という目標に向けて取り組みを進めている移動空間プロジェクトは、これまで公共空間の「シーム」改善の調査を行ってきました。

今後は、今回得ることができた UD 視点の意識の広がり、福祉分野から見る世界の潮流の学びを基に、より具体的な提言に向けた活動、障害者と健常者が共に生きる楽しみの創造へと展開させていきたいと考えます。(了)

※移動空間プロジェクトのこれまでの活動については、以下の IAUD Newsletter をご参照ください。

- ・「シームレスな移動空間の実現」に向けた取り組み  
IAUD Newsletter vol.2 第 9 号 (2009 年 12 月号) は[こちら](#)
- ・「JR 静岡駅～新静岡駅周辺移動情報シームレス化研究」  
IAUD Newsletter vol.3 第 2 号 (2010 年 5 月号) は[こちら](#)
- ・「京急品川駅～羽田新国際ターミナルアクセス調査」  
IAUD Newsletter vol.4 第 10 号 (2011 年 10 月号) は[こちら](#)

※「移動情報 UD 調査シート」公開ページは[こちら](#)をご覧ください。



～CM 字幕放送の本放送開始に向けて～  
 第3回定例セミナー 余暇のUDPJ企画  
 CM 字幕勉強会「CM 字幕に関する最新動向」開催！



佐多氏

多治見氏

「第3回定例セミナー」を5月20日（月）14時から、(株)NTTデータ 豊洲イノベーションセンター INFORIUM セミナーイベントホール（東京・豊洲）にて開催いたします。  
 今回は、これまで「テレビCMにも字幕を」をテーマに活動してきた余暇のUDPJの企画により、CM字幕勉強会「CM字幕に関する最新動向」として実施いたします。  
 講師には、(株)電通 電通ダイバーシティ・ラボ 障害ワーキンググループリーダーの佐多直厚氏や、花王株式会社 作成センター長の多治見

豊氏など、実際にCM字幕トライアルに実際に携わっている方々など6名をお招きし、最新のCM字幕情報や事例についてお話いただきます。

詳細は[こちら](#)をご覧ください。



～革新的なUD活動や提案を応援します～  
 IAUD アワード 2013 締切迫る！

IAUDアワード2013の応募を開始しました。今回は、持続可能な共生社会の実現に向けた革新的なUD活動や提案を審査対象とし、UDにおいて一定のレベルを満たしているものに、「IAUDアワード」を授与します。

また、受賞した取り組みには「IAUDアワード」マークの使用が許され、UDの普及啓発のために活用することができます。

IAUDアワード2013は企業・団体の業績や規模に左右されず、UD普及活動や提案自体を評価するので、低コストでの高いPR効果が期待できます。

第1次審査応募締め切りは5月31日（金）です。



IAUDアワード2012表彰式（福岡市）

応募希望の方、また詳細は[こちら](#)をご覧ください。



## スペイン UD 通信 7.Once の取り組み

スペインの街中やスーパーマーケットの店内などで、盲導犬を連れた視覚障害者や車いす利用者などの身体障害者が宝くじを販売している姿をよく見かけます。

この方々は、障害者の自立と社会参加を目指して1938年に国によって創立された社会福祉団体 ONCE（オンセ。スペイン視覚障害者協会）で働く人々です。



ONCE は宝くじの売り上げで財源を得ており、売り上げは障害者への奨学金制度や点字本の販売、盲導犬の育成などの費用に充てています。

さらに、宝くじの販売や ONCE 関連の事業などにこれまで6万人以上の障害者を雇用に導いており、障害者の自立と社会参加を促進しています。また、ONCE の宝くじ販売が路上で行われたことにより、障害者が一般市民の目に見える存在となりました。

宝くじは1枚1.5ユーロ（約195円）。楽しみながら気軽にチャリティができるため、ONCE の取り組みは国民にすっかり定着しています。宝くじの抽選は毎日行われており、テレビや新聞ではその日の宝くじの当選番号を発表すると同時に、ONCE の様々な取組も一緒に紹介しています。



Newsletter では、誌面を会員の皆さまの UD に関わる情報交換の場と位置づけています。ぜひ、会員企業の UD 商品開発事例や PJ/WG の活動成果事例等の情報、国内外の UD 関連イベント、シンポジウム等の開催情報をお寄せ下さい。

次号は5月下旬発行予定

特集：第2回 UD 検定・初級 講習会&検定試験 開催報告（予定）

無断転載禁止

IAUD 情報交流センター（IAUD サロン）：

〒104-0032 東京都中央区八丁堀 2-25-9 トヨタ八丁堀ビル 4 階

電話：03-5541-5846 FAX：03-5541-5847 e-mail：[salon@iaud.net](mailto:salon@iaud.net)